

男女共同参画



秋留台公園

特集

ふたり 男女で耕そう！ この大地！

「f·wave」とは…fは、family-家族、freedom-自由、future-未来、そしてf-強く、を意味し、waveは、波を表します。
f·waveは、環境の変化の波を紙面を通じて伝え、男女が生き生きと暮らせる未来をめざすコミュニケーション誌です。

ふたり 男女で耕そう！この大地！

2008年9月アメリカのリーマンショックに端を発した経済破綻は、世界中に大打撃を受け、今年6月完全失業者数348万人と過去最悪を記録した。

製造業や建設業で落ち込みが激しく、企業の雇用調整は、さらに進み、失業率は過去最悪になるとの見方が多い。

このような状況下で人々は、いままであまり関心を持つことのなかった農業に着目せざるを得なくなってきた。それは農業こそ私たちの生命を支える生業であることに気づき始めたからに他ならない。

食の安全。そして自然・風土・環境との調和を求めて、男女共同参画の視点から、改めて農業を取り上げてみたい。

世界の農業の始まり

人類が発生して約5万年。その歴史のほとんどは、食物を求めて歩くというのが生活のすべてであった。

動物を飼いならして家畜とし、野生植物の中で優れたものを栽培するようになってきた。これが牧畜と農耕の始まりである。

農耕の始まり

農業は、一般的には、9000年前、中近東のザク로스山脈の南麓、メソポタミヤで始まったといわれている。

ここで作物化されたコムギ、オオムギが世界各地に広がったと考えられている。

農耕の発生地と作物

名称	発生地	気候	作物
根菜農耕文化	東南アジア	高温湿潤	バナナ、ヤムイモ、タロイモ、サトウキビ
地中海農耕文化	メソポタミア	乾燥 (灌漑農業)	コムギ、オオムギ、エンドウ、ビート
サバンナ農耕文化	西インド・アフリカ	半乾燥	シコクビエ、ササゲ、ヒョウタン、ゴマ
新大陸農耕文化	アメリカ大陸中央部	適湿、適温	ジャガイモ、とうもろこし、インゲン、カボチャ

日本の農業の歴史

日本農業の中心は稲作であるが、その歴史をたどってみると縄文時代の前・中期(5500~4000年前)の三内丸山遺跡から、陸稲、クリ、サトイモなどが出土している。

また、縄文時代の後期(2600~2500年前)の菜畑遺跡から水稲が出土し、その時から日本の稲作が始まったと思われる。

そして、弥生時代には、全国に水稲作が広がったと考えられている。

米は、長い間、年貢として扱われており、米を作った人が食べられるようになったのは、明治時代以降である。

昭和(戦後)以降の農業史

1946年	「自作農創設特別措置法」制定 (戦後の食糧不足の中で農業の再建と食糧の増産をめざす)
1952年	「農地法」制定 (農業の民主化、耕作権の安定を図る)
1953年	「農業機械化促進法」制定 (農機具の利用促進のため長期低金利資金を貸付ける)
1961年	「農業基本法」制定 (農業の生産性を高めた産業従事者との所得の均衡を図る)
1964年	農薬、化学肥料の普及
1970年	減反政策導入
1971年	「農地地域工業導入促進法」制定 (農業従事者の他産業への就業を促進するため、農業地域へ工業の導入を狙う)
1992年	「新しい食糧、農業、農村政策の方向」まとまる
1993年	米大凶作
1995年	食糧管理法廃止、新食糧法施行 (米価下がり、米生産者所得も厳しい状況となる)
2000年前後から、化学肥料、農薬を使わない農業者が少しずつ増えてくる。	

農業の現状

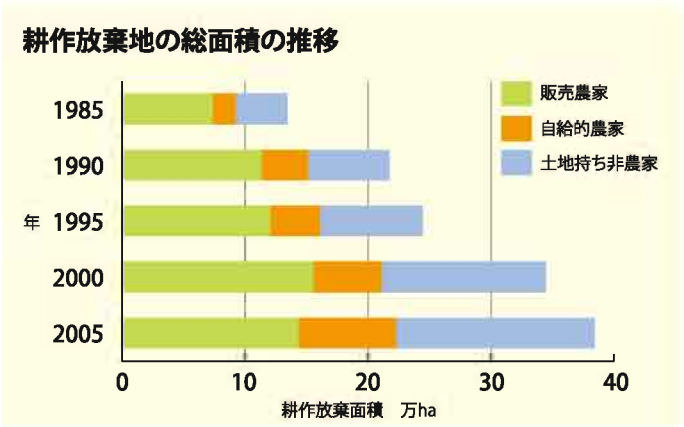
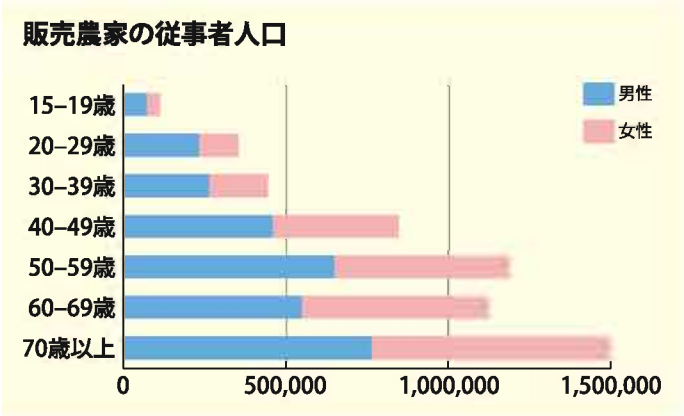
日本の農家数の約7割が販売農家であり、残りは、自家消費などとなっている。農家数は減少傾向にある。

販売農家での従事者は、高齢化が進んでいる。また、女性によって支えられていることも見逃すことにはできない。農業就業人口の約6割、年

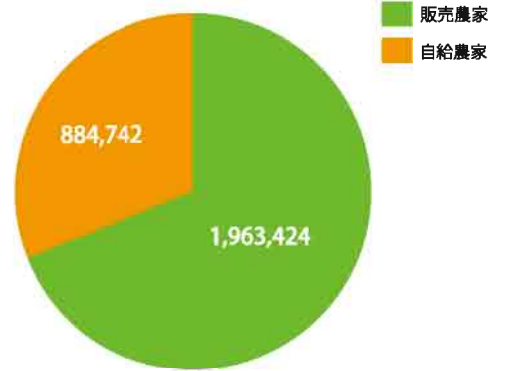
間の農業労働時間の48%は、女性に占められている。世界でも指折りの農業国フランスでさえ、33%となっている状況は見逃せない。

全国的に、耕作放棄地が年々増えており、相続などによる非農家の土地持ちが目立つ傾向にある。

もともと農業とは、大気、土壌、水系、生物相など環境をめぐり大きな



日本の農家数



な循環の流れの中でその恩恵を受けながら食料の生産を行う生命産業である。その循環の流れを肥料、農薬で破壊、汚染しているのが、現状である。しかし、消費者の食の安全を求める声に生産者も環境保全型農業へと変換しつつある。

*参考文献
・山根一郎著「日本の自然と農業」
・原剛著「日本の農業」

あきる野 農業の現状

日本の農業の変遷と現状を見てまいりましたが、身近なあきる野市はどうなっているのでしょうか。そこで、市役所環境経済部農林課長のお話を伺いました。

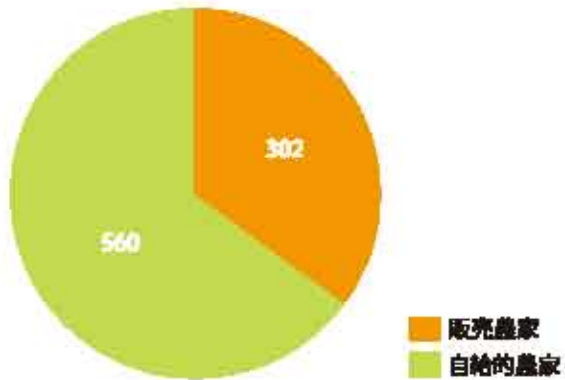
農家は少し増えています

全農家数は、862戸で全世帯数の27%です。このうち、農産物を自家消費や友人知人にあげるためだけに生産している農家（自給的農家）が7割を占めていて、こういう農家が増えています。これは、定年とともに農業を始める人がいるためと考えられます。

*販売農家…

耕作面積が30ha以上または年間の販売額が50万以上の農家

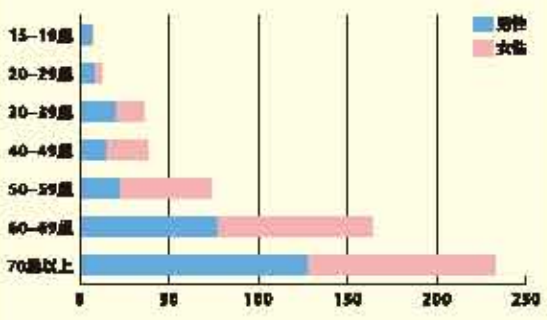
農家数



就農者は70歳以上が4割

販売農家の世帯員で1年間主に農業に従事した人数は、564人で、左のグラフのとおり高齢化が顕著に現れています。また、女性も重要な担い手です。

就農者人口



農業算出額は都内で7番目

あきる野市の算出額は、9億9千万円です。耕地面積の多い八王子市が1位、2位は八丈町（花）、3位は江戸川区（小松菜）となっています。また、あきる野市の農産物の順位は、1位スイートコーン、2位生乳、3位花卉苗類、4位鶏卵、5位トマトとなっています。

耕地は市域の6%

あきる野市は、60%が山林、6%が耕地（471ha）です。耕地のうち田は河川沿いに32ha、畑は439haあり、ウメ・クリなどの果樹を除いた畑が66%となっています。しかし、耕作放棄地（遊休農地）が徐々に増えていることが問題となっており、今後対応を図ることが必要となっています。

人気のファーマーズセンター

ファーマーズセンターの売上は、ここ数年伸びてきています。これは、消費者の安心安全な農産物のニーズの高まりに対して、生産者の顔が見えること、生産履歴管理・農薬適正使用システムにより、これまで以上に安全性に配慮している

ためと思われれます。

市内に3か所ある共同直売所（ファーマーズセンター、瀬音の湯）では、約7億8千万円（平成20年度）の総売上げがあり、農産物販売の会員の売上げは、約4億6千万円で、全体売上げの約6割を占めています。秋川ファーマーズセンターの会員一人当たりでは、年間280万円程度の売上げがあります。

これからのあきる野は

平成18年に策定されたあきる野市農業振興計画では、大都会に近いという地の利を生かして「地産地消」の農業をさらに推進し、魅力ある産業を目指すとしています。

また、農業者、消費者などが連携して、食育、安心安全の農産物について検討し、見直しを図る予定です。

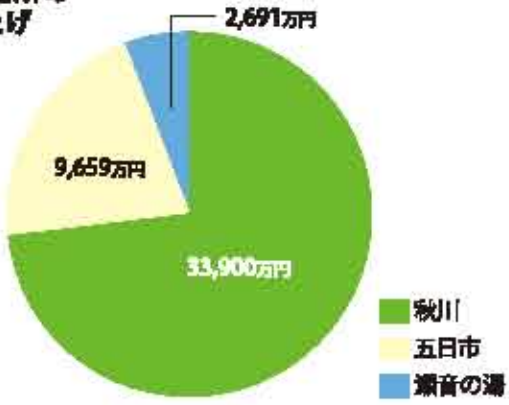
健康づくりの一環として、ふるさと農産隊があります。65歳以上の方が、市が借りた農地で、農業者の指導のもと、野菜などを栽培したり、健康づくりをしています。力がつかれば、農家の応援隊になるかも知れません。

市では、ふるさと農産隊の農地とは別に、市民農園も貸し出しています。

あきる野農業としての課題点は、後継者、野生鳥獣による被害、遊休農地です。

野生鳥獣（サル、イノシシ、シカ、アライグマ、ハクビシンなど）による農作物被害を防ぐために電気

各共同直売所の会員売上げ



秋川ファーマーズセンターの様子



畑から見た秋川ファーマーズセンター

インタビュー

ミミズもカビもともだち!

榎本 輝 明さん
由美子さん



草花の畑にて

山崎 糞を使った農業をしているそうですが...

榎本 糞はたくさん使っています。糞をまくとカビが生える、そのカビを食べるカビがトマトなんかにつく糞カビを食べてくれる。やっぱアフリカの草履みたいなならないといけない。アフリカの草履もライオンだけじゃ死んじゃうよね。

いろいろいて均整がとれる。糞は直接には肥料にならないんだけど、分解してゆっくり効いてくる。

代田 由美子さんは、一緒にやっているんですか。

榎本 力仕事は私、枝かきなんかは美、分業しながらやっているんです。2人パートさんがきていますが、そっちの方は、妻に任せています。

代田 由美子さんは結婚当初から農業をやっているんですか？
昔の人は農家に嫁がせたくない

と言いますが...

由美子さん 農家だからどうのこうのということではなく、主人とお付き合っていて、たまたま仕事で農家だったと言う事です(にっこり、当然のように)

石川 農業は2人で協力しないとできませんよね？

榎本 そうだねえー 1人でやるのは大変だねえー。

昔みたいにも市場にドーンとトラック一台もついでいけるならいいんだけど。

今はファーマーズセンターができたから市場に近い形になったけど、農業の履歴を残さないといけないのでそれは大変です。

代田 ほとんどファーマーズセンターに出しているんですか？

榎本 90%以上は出しています。あとは特別養老老人ホームなどで

石川 小学生に野菜の作り方を教えているそうですか。

榎本 毎年、草花小の3年生に大根の種まきから収穫まで教えています。

昨年は、給食、たくあん用などで、千本ほど作りました。先生方にご苦労をかけたんですが、学年一揃にきてもらってます。秋は、1週間ずれるとつらいんです。大根にスが入らないように神経を使ったります。また、子どもが抜きやすいように40センチぐらいの餅うんしたり、種もぎりぎりに買いにゃ行ってるんです。あと、御堂中と東中が農場体験で来て、3日間まる1日、私と話しながら仕事します。

山崎 ご苦労多いですが、子どもたちにとっては貴重な体験ですわね。

榎本 そうねー びっくりさせるの楽しいよね。

こんな小さな種がこんなに大きくなるでしょ。それと自分で作ったものなら、よく食べると聞くと、又楽しいよねえー、嬉しいねえー。

代田 世の中、農業ブームです。弟子はとらないんですか？

榎本 農業はやるの楽しいよね。毎日、毎日同じことがないからね。弟子？いろいろな人に来てもらっていいですよ。楽しんで農業

したい人など来てくれればいいですよ。

石川 市内の学校給食7500食を将来、あきる野の農業でまかなえませんか。

榎本 やればできると思います。(思いがけないほどの力強いお返事！)

野菜を漬くから、根っこ切って洗われて、運ばれて来ると形は変わらないけど、中の元氣を使いきって味も鮮度も落ちます。だからやっぱり、ここ、あきる野で、朝、採れた元氣なものを食べたほうが、自分も元氣になるんです。

山崎 まさしく地産地消の原理ですね。これからの展望は？

榎本 ワイワイ、ガヤガヤやって、ご飯食べられればいいかな...

インタビューを終えて

農業は辛く大変なものというイメージを一掃させられたお話しでした。

ミミズもカビも友だち、自然を大切にしながら農業を楽しんでいる榎本さんご夫婦。子どもたちには生きものを食べて生かされている事を忘れず、残さず食べようと伝え続けている榎本さん。農業に対する榎本さんの情熱は、我があきる野の農業に明るい未来を感じさせてくれました。

自分で作ったものはやっぱりおいしい!!

小学校では野菜やお米の生産体験学習が行われています。あきる野市内の多くの小学校では学校近くの農家の方から田んぼを借り、指導を受ける米作りの体験授業が行われ、また草花小では約1000本の大根を作っています。身近に田畑が広がる地域だからこそできること。子ども達の貴重な経験になっていきます。新鮮でおいしく、安全で環境にやさしい地場野菜は、生産者と消費者のコミュニケーションにもなっています。



わーわー、きゃーきゃー、大喜び

6月8日、四秋留小学校5年生の田植え体験が行われました。ボランティア指導員2年の近藤良一さん(78)の説明を受け、武内さんから借りている田んぼに苗を植えていきます。ほとんどの子が田植えは初めてとのこと。「気持ち悪い」と水に足を入れるのをためらう子もいましたが、足を踏み入れた後は「苗をもっとちょうだい」と言うほどに。最後には子ども達は「腰がいたい」と農作業の大変さを実感しつつ、無事終了。秋の収穫祭には、できた新米でお飯を作り、いただく予定です。



僕たちが作った大根だぞ!!

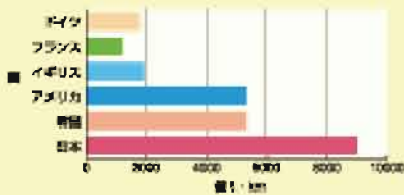
昨年の12月10日、草花小学校3年生が種から育てた大根の一部が、あきる野市内全小中学校の給食(おでん)として使用されました。これはあきる野市の給食センターでは初めての試み。10年以上草花小で大根作りの指導をしている榎本さん、泥付き大根を洗った子ども達と保護者、先生、給食センター職員など多くの方々の協力により実現されました。



フード・マイレージって知っていますか?

農林水産政策研究所が日本の食糧事情を明らかにする目的で「食料輸入料(t)×「輸送距離(km)」を計算したもの。国ごとに比較しています。単位はトン・キロメートル(t・km)。イギリスの消費者運動家ティム・ラングによる「フード・マイルズ」という市民運動(食糧生産地から家庭までの輸送距離を環境のためになるべく短くしようという考え方)が元になっています。

各国のフード・マイレージ(2001年)



日本のフード・マイレージの品目別割合



日本のフード・マイレージ...

日本のフード・マイレージは約9000億 t・km。韓国とアメリカの約3倍、イギリスとドイツの約5倍、フランスの約9倍。(2001年)日本のフード・マイレージの輸入相手国別割合はアメリカ約59%(約5300億 t・km)、オーストラリア12%、カナダ5%。日本のフード・マイレージの品目割合は輸入量約5800万トンのうち、穀物は約51%、油用の種子(大豆・綿の種・菜種など)が約21%であり、7割が穀物。

環境への影響...

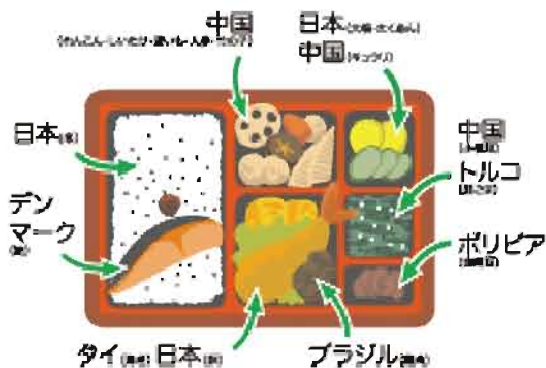
外国の生産地から日本の消費地まで、食糧輸送にエネルギーが消費され、地球温暖化の原因となる二酸化炭素が排出されています。二酸化炭素を減らし、フード・マイレージを減らすためには、地元でとれた食物を地元で消費する、地産地消が望まれます

コンビニ弁当は地球4周の旅をしている!?

コンビニで売られている「和風鶏の内弁当」。使われている食材の産地から東京港までの輸送距離を計算すると、合計で約18万キロ。安くて便利なコンビニ弁当は地球4周分の距離を旅しているのです。

参考資料

- 「食べ物が世界を変えている」コンビニ弁当16万キロの旅」 農林水産省
- 「日本の食料」①食生活の変化」 失口芳生監修 岩崎書店 2006年
- 「食生活の変化」 農林水産省
- 「コンビニ弁当の現状」 太郎次郎社エディタス 2005年
- 「食生活の変化」 岩崎書店 2006年
- 「食生活の変化」 農林水産政策研究所HP



Information

第14回 女と男のライフフォーラム inあきる野

- ・日 時 平成22年2月11日(木) 翌日 午後1時30分から(予定)
- ・場 所 ルビアホール (あきる野市ルビア3階)
- ・講 師 安藤西浩さん (NPO法人ファーマー・リサーチ・ジャパン代表)

詳細しくは、「広報あきる野」でご案内いたします。

市民大学 「男女共同参画講座」

- ・日 時 平成21年10月19日(月) 午後1時30分から
- ・場 所 市民会館
- ・内 容 テーマ ~明日が面白くなる子育て~ 変化と共に変えた日
- ・講 師 正岡守輔氏 (中央大学社会学部准教授、NPO推進ネット代表)

詳細しくは、「広報あきる野」でご案内いたします。

編集後記

あきる野の農業を豊と食の両面から取り上げました。次号もさらに深めていきます。お楽しみに!!

表紙写真

大谷 勝

情報誌編集委員

石川光代・大本浩子・齋藤映子・代田富貴子・山崎経子